



誇れる景観を後世に残そう！

## 景観の良い場所ベスト5

(市内)

- 1位 花フェスタ記念公園
- 2位 鳩吹山
- 3位 梶ヶ丘・桜ヶ丘・桂ヶ丘などの住宅地の街並み
- 4位 木曽川
- 5位 可児やすらぎの森

資料：平成18年度市民意識調査

## 景観行政団体に手を上げる

これまで可児市は、平成11年に「可児市都市景観基本計画」を策定し、「景観アドバイザー制度」の創設や地

区計画の推進による統一感のある住宅地の形成など良好な「景観まちづくり」に取り組んできました。このような基礎があつたこともあり、景観行政団体として、本格的に良好な景観形成に取り組むことを決めました。そして、平成17年11月に、岐阜県の同意を得て景観行政団体になりました。県内で5番

景観計画とは、平成16年6月に、日本で初めての景観に関する総合的な法律として「景観法」ができました。この中で、景観行政団体（景観にやる気を取り組む意向があり、県の同意を得た市町村）は、良好な景観の形成に関する計画を定めることができることになりました。これが「景観計画」です。

## 景観計画とは

区計画の推進による統一感のある住宅地の形成など良好な「景観まちづくり」に取り組んできました。このような基礎があつたこともあり、景観行政団体として、本格的に良好な景観形成に取り組むことを決めました。そして、平成17年11月に、岐阜県の同意を得て景観行政団体になりました。県内で5番

## 市民意識を活用

「景観計画」の策定にあたり、市は平成18年度に景観に関する基礎調査を実施しました。現地調査、地域別懇談会、市民意識調査、事業者意識調査、小中学生意識調査、ホームページによる意識調査、写真コンテストなど、多くの市民の皆さんの協力を得て景観資源の把握と課題を抽出することができました。

これらの結果を景観計画策定の基礎資料として活用しました。中でも、緑地の推進と保全については、子どもからお年寄り、事業者の多くが、取り組むことの必要性を挙げていました。

## 景観計画策定委員会で審議

計画は、市民公募、各種団体代表者、学識経験者など18人で構成される景観

4月1日から「可児市景観計画・景観条例」がスタート

# 誇れる景観を 後世に残そう！

市は、可児市らしい景観を守り、はぐくみ、そして創造するための独自の施策を定めた「可児市景観計画」を策定し、同時に「可児市景観条例」を施行します。  
市民、事業者、行政が協働で魅力あるまちを次世代に残していけるよう、ご理解とご協力をお願いします。



戸走橋から鳩吹山を望む(塩)

## 景観計画の内容は

景観計画は、9章で構成され、良好な景観の形成によるまちづくりを進めるための施策や方向性を示しています。また、市民と事業者、行政が協働で推進していく内容になっています。主な内容は次のとおりです。

## 景観計画区域

市域全体で良好な景観の形成を進めていくことが望ましいと考え、市内全域としました。

## 目指すは「心の景観」

市内には、長い年月をかけて守り、はぐくまれてきた自然環境や歴史的・文化的資産が数多く残されています。また、都市化の進展とともに計画的な新しい街並みの整備も進み、人と自然が調和し、新しいものと古いものが溶け合った独自の景観もあります。

しかし、秩序が無く、無機質な市街化の進行によって、貴重な景観資源は失われつつあり、何もしなければ今後さらに失われてしまいます。

良好な景観とは、単に目で見たまちの美しさだけではなく、そのまちに暮らしている人が「住んで良かった、これからも住み続けたい」と愛着や誇りを持てることであり、そのまちを訪れた人が「来て良かった、再び訪れたい」と感じるまちの魅力です。それは、生活や活動が積み重なって表現されるものであり、心に深く残るものです。

## 景観条例とは

市は、計画的に「景観まちづくり」を進めるため、「景観計画」を策定しました。これを具体的に実行するものが、「景観条例」です。

## 景観条例の構成

- 第一章 総則（目的、責務など）
- 第二章 景観計画策定手続き、景観形成重点地区など）
- 第三章 行為の制限等（届出の方法、指導、勧告など）
- 第四章 景観重要建造物指定の標識など）
- 第五章 景観重要樹木管理の方法の基準など）
- 第六章 景観まちづくりの推進施策（助成、表彰など）
- 第七章 雑則（委任）

## 景観計画の構成

- 第1章 計画策定の前提
- 第2章 景観の特性および課題の整理
- 第3章 景観計画の区域
- 第4章 良好な景観の形成に関する方針
- 第5章 行為の制限に関する事項
- 第6章 景観重要建造物および樹木の指定の方針
- 第7章 景観重要公共施設の整備に関する事項
- 第8章 景観形成重点地区の選定
- 第9章 「景観まちづくり」の推進



## 誇れる景観を後世に残そう！



### 景観計画策定委員長

松本 直司さん

(名古屋工業大学大学院教授)

策定委員会では、毎回長い時間をかけ各委員で熱心に議論しました。特に、最も基本となる、「可児市の景観計画の目指すもの」については白熱しました。結果は、「ここの景観」になりました。

景観は、観光地にある絶景といわれるようなものばかりではありません。住んでいる人の、心の中に育まれてきたものが大事です。すなわち、よい景観とは、「豊かな生活やコミュニティー」の現れであり、「このようなまちであつたら良いなあ」と思えるものなのです。この意味で、「ここの景観」は可児市に適したものだと言えます。

今回の計画、条例をきっかけに、可児市らしい良好な景観が、次世代に引き継がれていくことを期待します。



#### 指定の基準

市民に親しまれ、シンボルの存在となっているもの  
美しい形や優れた技術が見られるもの  
再び造ることができないもの

また、長い時間をかけてはぐくまれ、地域住民の生活に親しまれてきた巨木や名木、社寺林などが点在しています。景観行政団体は、景観上よく調和し、シンボルとなるような外観の優れた建築物や工作物および樹木を、景観重要建造物または景観重要樹木として指定することができます。



#### 指定の基準

市民に親しまれ、シンボルの存在となっている樹木  
優れた樹形のもの  
自然の偉大さを教えるとともに安らぎを与えてくれる樹木  
社寺林や地域の骨格となる樹林などを構成する主たる樹木

### 景観形成重点地区の選定

市内には、良好な景観の形成を重点的に図る必要がある地区が数多く存在しています。

しかし、市全体の行為の制限は、あまり厳しいものになっていません。これは、それぞれの地域にふさわしいルールを、地域で市民の皆さんと十分に話し合いながら、地域ごとにあるべき景観像を定めていくべきだと考えたか



### 景観計画策定委員

市原 崇光さん

(可児商工会議所代表)

住民は、景観の悪い可児市よりも、景観の良い可児市を望んでいると思います。それには、行政や私たち市民、事業者が、それぞれの役割を意識し、皆さんで景観を良くしていかなければならないと思います。

商売をしていることありますが、私は、店の前の道路などの掃除をすることが当たり前になっています。身近なちょっとしたことを市民、事業者が少しずつ積み重ねれば、とても大きなことになると思います。住んでいる人も気持ちよく、また、多くの人に訪れてもらえる市になると良いと思います。

今後、どのような景観が商店や商店街の景観として良いのか、検討していかなければならないと思っています。

ています。

一人一人が身近なことから少しずつ取り組んでいくことが大切です。

### 今後の景観まちづくり

「景観計画」や「景観条例」ができても、すぐに景観が良くなるというものではありません。景観は長い時間の積み重ねです。少しずつ皆さんで取り組んでいくことが必要です。

景観形成重点地区については、今後、各地域に働き掛けていきたいと考えています。市民の皆さんもより関心を持ち、景観まちづくりに一緒に取り組んでいただきたいと思います。子どもや孫そして次世代に、良好な景観を地域全体で残していきたいと思います。

問合先 都市計画課

「景観まちづくり」の推進  
景観まちづくりの実現化方を定めています。市民・事業者・行政が相互に役割を認識し、理解、協力を図りながら、「協働」で推進していくことにし

**良好な景観の形成に関する方針**  
良好な景観とは、人々の営みや活動が積み重なって表現されるものであり、人々の心に深く残るものです。そのため、テーマを「暮らしが輝く共生都市を目指して」としました。  
基本目標を「自然・文化的景観」「街の景観」「活動の景観」と大きく3つに区分し、さらに14の景観特性に分け、それぞれの基本方針をつくりました。

**行為の制限に関する事項**  
行為の制限は、景観計画区域内で行う建築行為などに対し、届け出などによる規制誘導によって、良好な景観形成を図っていくものです。提出された内容が、景観計画で定めた景観形成基準に適合しない場合は、申請者に勧告することになります。また、届け出対象にも関わらず、届け出をしない場合には罰則もあります。

これは、建築物など目に見える対象物を適正に誘導していくものであり、景観形成によるまちづくりを進めていくための手段であるといえます。下段のとおり、届け出の対象や基準を定めました。

**景観重要建造物および樹木の指定の方針**  
市内には、歴史的・文化的価値が高い建造物や、各地域で広く親しまれている、デザインが優れた建造物などが数多くあります。

一定規模以上の建築物や工作物などを設ける場合、

## 景観計画・景観条例に基づく届け出が必要になります！

4月1日から、右表にある行為をする場合、事前に届け出が必要になります。大規模な建築物などは、周囲の景観に大きな影響を与えます。そのため、景観法に基づく届け出対象としました。また、それぞれの行為について、建築物の外壁の色彩や緑化などの基準を定めました。

届け出対象は限定していますが、できる限り基準に配慮し、良好な景観まちづくりを地域全体で進めましょう。

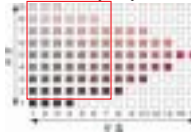
### 外壁の色彩基準

計画では、「けばけばしい色彩とせず、落ち着いた色彩とする」について、マンセル値を用い、具体的な基準を定めました。原則、赤枠内を使用してください。

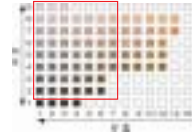
#### 有彩色

色相	明度	彩度
赤、黄赤、黄	2 以上	7 以下
その他	3 以上	6 以下

0R ~ 4.9R (赤)



5R (赤) ~ YR (黄赤) ~ 5Y (黄)



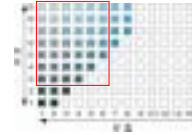
#### 無彩色

色相	明度	彩度
N	2 以上	-

G (緑)



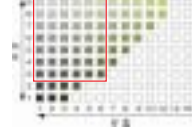
BG (青緑)



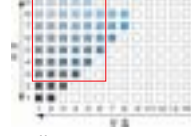
5.1Y ~ 10Y (黄)



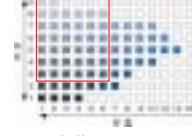
GY (黄緑)



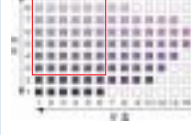
B (青)



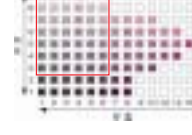
PB (青紫)



P (紫)



RP (赤紫)



景観条例届出事務説明会を開催  
景観計画・景観条例に基づく届出事務説明会を、下記のとおり開催します。  
期日 2月15日(日)  
時間 午後1時30分～午後7時  
場所 総合会館分室(JR可児駅西)  
内容 手続きの流れ、届け出対象、景観形成維持基準など

マンセル値とは色相・明度・彩度で色を表示するJIS規格です。印刷などの仕様により、実際のマンセル値とは異なる場合があります。

事前相談など  
計画の段階で、景観への配慮事項を相談してください。

届け出  
行為(工事など)に着手する30日前までに、行ってください。

景観計画に基づいて審査します。場合により、助言・指導します。

適合

不適合

勧告・変更命令  
従わない場合は氏名の公表を行います。

勧告・命令に基づく修正

行為(工事など)に着手  
届け出から30日経過するか、行為(工事など)を着手できる旨の通知書を受け取るまで着手できません。